

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「熟語の意味」 教材名「熟語の意味」

2 単元の目標

学習した漢字を語の中で読み、意味を確かめて文で使うことができる。文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確かめることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字を語の中で読み、意味を確かめて文で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	①「書くこと」において、文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確かめている。(B(1)エ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

熟語を漢字の意味から予想し、辞書と文脈で確かめて使う。漢字の意味を足した推測と辞書で確認した意味を区別する。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)エを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

.....

.....

.....

(3) 指導について

既習漢字で構成された熟語を教師が選び、予想欄と確認欄を分ける。辞書の意味を自分の言葉で説明し、その意味に合う短い文を作って読み合う。おおむね満足できる状況は、文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○漢字の意味から熟語の意味を予想する。辞書と前後の文で確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○自分の文で使う。語の選び方を見直す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確認することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認め、自分の最初の考えを短く書く。 ○「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」 【めあて】熟語を漢字の意味から予想し、辞書と文脈で確かめて使う。 〈予想される児童の反応〉 ・ 別々の漢字の意味から予想できる語がある。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」自分の文で使う。語の選び方を見直す。 熟語の意味の予想、辞書で確認した意味、自作文と直した理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 別々の漢字の意味から予想できる語がある。 ・ 足した意味だけでは分からない。 ・ 辞書の使い方の例を見て直したい。	既習漢字で構成された熟語を教師が選び、予想欄と確認欄を分ける。辞書の意味を自分の言葉で説明し、その意味に合う短い文を作って読み合う。 想定するつまずき：予想を辞書で確認済みの意味として書く、例文の場面を考えず語を入れる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文を読み返し、熟語が伝えたい内容に合うかを確認している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 辞書の使い方の例を見て直したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「漢字から考えた意味は、文の中でも合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

